

表面波探査の結果をまとめている地盤調査報告書ですが、判定内容の修正他の理由により、いくつか修正を加えました。いままでは、それぞれ”標準 4”、“沈下量無し 4”、“シールド 4”の名称でしたが、末の数値が”5”になります。また、末の数字が”4”の報告書から、報告書の動作期限は 2027 年 3 月とさせていただいております。これについては、新しい報告書についても同様です。

使用方法が変わった部分もございますので、以下に説明をさせていただきます。



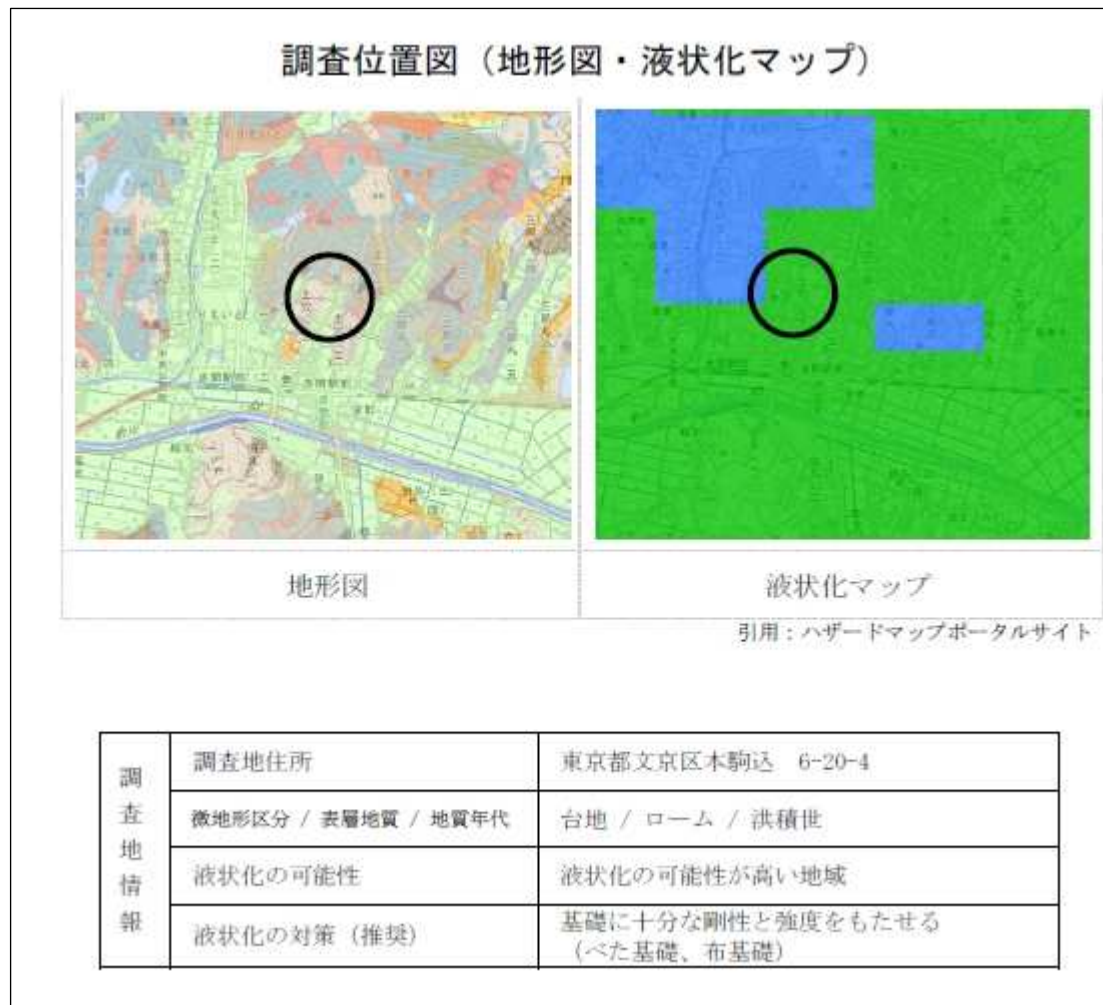
今回、修正を行ったのは調査位置図の頁です。いままでは調査地の地形がわかるように、“地形図”のみを記載しておりました。新しい報告書は、地形図に加えて液状化マップを記載するようにしました。

2025 年 4 月に、建築基準法の改正がありこれに伴って建物の設計者にとって、液状化の発生についての情報は重要性をましたと考えます。皆様のお手間をいただいてしまい、大変に恐縮ではございますが、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年 の 報告書の修正内容も後ろのほうにあります。今一度確認をお願いします。

	頁
1. 調査位置図（地形図・液状化マップ）	・ ・ ・ ・ ・ - 1 -
～～以下昨年の修正内容説明～～	
1_old. 報告書のひな型のとりあつかい	・ ・ ・ ・ ・ - 2 -
2_old. 調査配置図の頁	・ ・ ・ ・ ・ - 3 -
3_old. 支持力計算結果（支持力断面図）の頁	・ ・ ・ ・ ・ - 4 -
4_old. その他（基礎・地盤提案書、解析条件）	・ ・ ・ ・ ・ - 9 -

1. 調査位置図(地形図・液状化マップ)



特別な操作方法はありません。従来行っていたとおり、行政から発布されている液状化マップを入手し、しかるべき位置を図示してください。

1_old. 報告書の取り扱い

報告書の配布に際して、手間のかかる部分（認定書の張替等）がいくつかありました。今回の改訂で、これらの作業を低減するように変更しました。

①技術審査書、調査員認定書を、報告書ひな形から削除しました。

技術審査書、調査員認定書については、“調査概要”のマクロ実施時に、以前と同じ頁に貼り付けられます。

②基礎・地盤提案書のテキストボックスへの入力、マクロで行うように変更しました。

基礎・地盤提案書に御社名、住所等を表示するテキストボックスがありますが、“調査概要”のマクロ実施時に御社情報が入力されます。

従来のひな型（基礎・地盤提案書）

従来は、配布の度に会社名その他の
入力をする必要があった

新しいひな型（基礎・地盤提案書）

調査概要のマクロの際に、入力され
ます

以上、2つの変更点があります。報告書の配布時の作業が幾分簡略化されます。

※報告書のひな型をみると、空白のページがあるようにみえますが、技術審査証、調査員認定書が張り込まれるページです。異常ではありませんので、報告書作成時に詰めたりしないようにしてください。

※office のバージョンによっては、技術審査証、調査員認定書が、ずれることが予想されます。

報告書作成時に修正をお願いします。

※プログラムが格納されているフォルダーに、“nintei.jpg”と“gjss.jpg”の二つのファイルが追加されます。このファイルが、それぞれ調査員認定書、技術審査証となります。今年度のご自分の認定書をお持ちかと考えます。お持ちの認定書（jpg 形式）を“nintei.jpg”という名前で保存していただき、プログラムファイルのフォルダーへ入れてください。今後、更新時にはこのファイルだけを皆様にお送りする形式となります。その都度、リネームしてフォルダーへの保存をお願いします。

2_old. 調査配置図の頁

少し前に、office の update の影響により、テキストボックスの動作に異常が生じたことがありました。このことを受けて、“図形描画支援”のマクロについて、内容を変更しました。

マクロ画面の、(1)から(4)の手順を順番に操作していただければと思います。

(1) 測点番号 配備

ひな形から立ち上げた状態の報告書は、テキストボックス（測定ポイント番号や点間距離）が張り付いていません。最初にこれらを、報告書の要所に貼り付けます。“No6 あり”にチェックを入れますと、①～⑥までの測点番号が配備され、“(4)処理”（建物配置をコピーする）の実施により、配置図と同じ位置へ移動します。

※(3)マクロで⑦以降の測点番号は配備されますが、マクロによる移動機能はありません。



図形描画設定

(1) 測点番号 配備

測点テキストボックス配備 ☐ No6あり

(2) 配置図方角 選択

☒ 方角:北が上方向 ☐ 方角:北が右方向

(3) 建物形状 擁壁 その他 選択

☐ 正方形 ☐ 長方形(縦長) ☐ 長方形(横長)

☐ 建物L型 ☐ 測点nの表示(n=7~20)

☐ 法面 ☐ 省略線

☐ 井戸 ☐ マンホール

☐ ブロック擁壁 × ☐ 間知ブロック擁壁 ×

☐ RC擁壁(L型) × ☐ 石積み擁壁 ×

☐ その他 ×

挿入

(4) 処理

建物配置をコピーする

(2) 配置図方角 選択

(3) 建物形状 擁壁 その他 選択

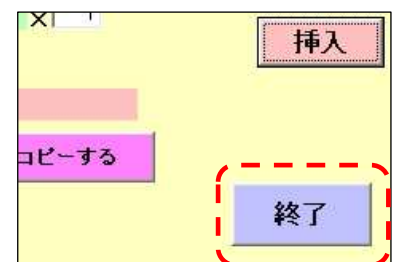
配置図の作成内容に沿って、チェックを入れてください。チェックをいれたら、“挿入”ボタンをクリックしてください。

※従来は報告書に法面マークや省略線を表示していましたが、選択するようになっていきます

(4) 処理

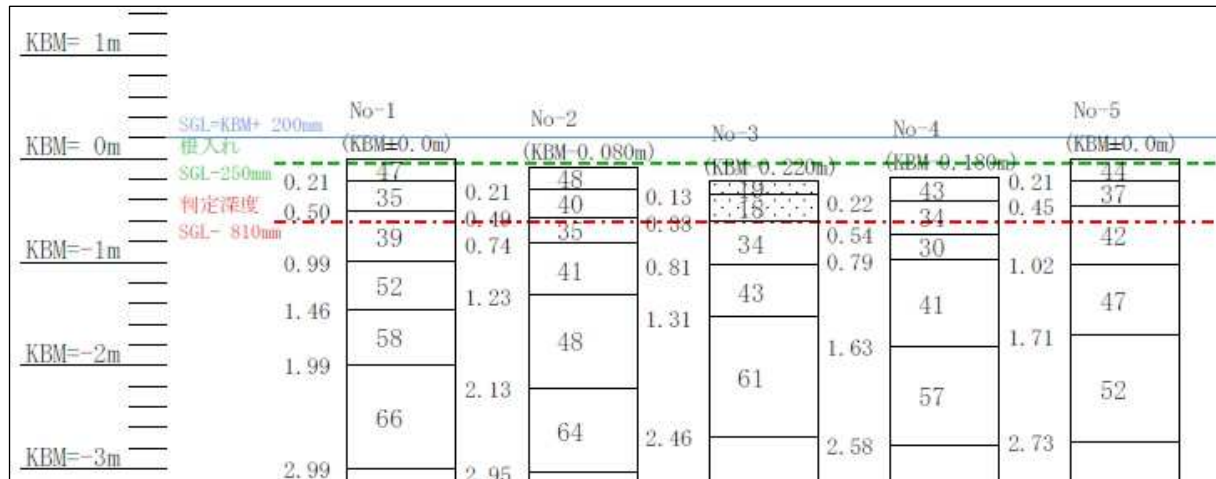
従来と同じ操作となりますが、配置図の作成が終わりましたら、建物を示す図形をクリックして選択状態にしたまま、マクロを開いて、“建物配置をコピーする”ボタンをクリックしてください。

※3つのボタンがありますが、いずれも動作も終了すると右下に“終了”ボタンが表示されます。



3_old. 支持力計算結果（支持力断面図）の頁

支持力断面図について、調査時の地盤高さと、設計 GL、ベンチマーク、根入れ深度の関係が表示できるように変更しました。



※断面図は、KBM 基準、あるいは SGL（設計 GL）基準のどちらかを選択することができます。

～～操作手順説明～～

・手順1

まず、“現場メモ読込”ボタンをクリックします。マクロのフォームの中に、現場メモから、各測点の“地盤高さ(mm)”、“測点間距離(mm)”、“地盤高さの基準”、建物長辺、建物等の情報が書き込まれます。

換算式のタブの中に、根切（根入）深度(m)の値を入力する箇所があります。正しい数値が入力されているかを確認し、正しくない場合は、正しい数値を手入力してください。

現場メモ読込ボタンで自動入力されます

根切深度は、概要読み込みボタンで入力、あるいは手入力してください

・手順2

次に、現場メモに記した“調査高さ基準”と”設計 GL“の関係を、ファイルタブの中の、“基準高さ・高低差”の赤い箱の中に記入してください。単位は”mm“です。

ここから、KBM 基準の断面作成の手順説明となります。SGL 基準の断面作成については、本紙 P6 からとなります。

・手順3 (KBM 基準)

“KBM 高低差”にチェックを入れ、右側に表示される textbox に、断面図の深度表示に用いる基準名称を入力してください。

※デフォルトで“KBM”となっています。

・手順4 (KBM 基準)

次に、“支持力断面”のタブに移動します。“支持力断面”のタブは少しレイアウトを変更しています。右から、“①グラフ設定”、“②根切・根入線表示”、“③判定深度”の3つの部分に分かれています。“①グラフ設定”から順番に入力していきます。

“①グラフ設定”で“KBM 表示”にチェックをいれます。

※手順③(KBM 基準)を
実行していると、“KBM 表示”しか
チェックができません

※根入深度、判定深度の表示を
しない場合は、ここで設定は終了です。

・手順5 (KBM 基準)

“②根切・根入線表示”へ、根入・根切線の表示について設定を入力します。まず、左側の“選択”のところで、根入表示なのか根切表示なのかを選択してチェックします。次に、根切線を1ラインで表示するのか、各測点ごとに別々の深度で表示するのかを選択します。

根切線を表示しない場合は、チェックの必要はありません。

※根切深度は手順1で確認した
深度が自動で入力されます

※根入解析なのか、
根切解析なのかで
選択します。

※上のチェックは根切を1本の直線を表示します、
下のチェックは、深基礎等により、根切深度が測定位置に
よって異なる場合に利用します。

・手順6 (KBM 基準)

“③判定深度”へ、判定深度の表示についての設定を入力します。まず、“表示する”にチェックをいれます。チェックをいれるとこのの入力項目が表示されますので、“判定深度基準”についてのチェックを行います。2か所のチェックの後、判定深度の値を入力します。

判定深度を入力しない場合は、チェックの必要はありません。

※“表示する”にチェックをいれると
それ以下の入力項目が表示されます。

・手順7 (KBM 基準)

従来通り、“支持力断面”のチェックをいれて、“実行”ボタンを押すことで、マクロが実行されます。

～～ここから、SGL 基準の断面作成についての説明となります。～～

・手順3 (SGL 基準)

次に、“支持力断面”のタブに移動します。“支持力断面”のタブは少しレイアウトを変更しています。右から、“①グラフ設定”、“②根切・根入線表示”、“③判定深度”の3つの部分に分かれています。“①グラフ設定”から順番に入力していきます。

“①グラフ設定”で“SGL 表示”にチェックをいれます。

※手順③(KBM 基準)を実行していると、“SGL 表示”はチェックができません

※根入深度、判定深度の表示をしない場合は、ここで設定は終了です。

・手順4 (SGL 基準)

“②根切・根入線表示”へ、根入・根切線の表示について設定を入力します。まず、左側の“選択”のところで、根入表示なのか根切表示なのかを選択してチェックします。次に、根切線を1ラインで表示するのか、各測点ごとに別々の深度で表示するのかを選択します。

根切線を表示しない場合は、チェックの必要はありません。

※根切深度は手順 1 で確認した
深度が自動で入力されます

※根入解析なのか、
根切解析なのかで
選択します。

※上のチェックは根切を 1 本の直線で表示します、
下のチェックは、深基礎等により、根切深度が測定位置に
よって異なる場合に利用します。

・手順 5 (SGL 基準)

“③判定深度”へ、判定深度の表示についての設定を入力します。まず、“表示する”にチェックをいれます。チェックをいれると入力項目が表示されますので、“判定深度基準”についてのチェックを行います。2 か所のチェックの後、判定深度の値を入力します。

判定深度を入力しない場合は、チェックの必要はありません。

※“表示する”にチェックをいれると
それ以下の入力項目が表示されます。

・手順 6 (SGL 基準)

従来通り、“支持力断面”のチェックをいれて、“実行”ボタンを押すことで、マクロが実行されます。

4_old. その他（基礎・地盤提案書、解析条件）

- ・基礎・地盤提案書へ地盤保証に関する文章を追加しました。

※上記考察並びにその対策方法は、現時点での地盤状況を調査した結論です。また、今後近隣で中～大規模な掘削工事や盛土工事がある際に地下水位・地盤の変動を起こす恐れがあるので、その工事発注者、または工事施工業者に対して、工事施工前に家屋調査（レベル測定及び建物の内側、外観、敷地状態等を写真等に記録する）を依頼してください。

※既存の擁壁・土留めに関して、第三者機関（建築確認審査機関）からの指示や、安全性が確認出来ない場合は、安息角の考慮をご検討ください。

※地盤に関するトラブル防止の為、必ず実行してください。ご不明な点は、当社までお問い合わせください。

【 地盤保証ご加入の場合 】

基礎・地盤提案書・作業手順書に則った施工を行っていただく事で地盤保証の対象となります。

基礎・地盤提案書・作業手順書内の指定作業の写真撮影（遠景・近景・撮影日明記）と保管をお願いいたします。

表層地盤改良・柱状地盤補強の判定の場合、NPO 住宅地盤診断センターが認定する工法・施工会社にて補強工事を行い、施工前は設計計算書・施工計画図面の提出、施工後は 30 日以内に工事報告書の提出をお願いいたします。

基礎・地盤提案書にて再調査の指定がある場合は工事施工後に再調査が必要となります

上記の内容が不十分な場合、地盤保証の対象とならない場合がありますのでご注意ください。

- ・支持力地層区分断面図について

沈下量無しの報告書について、支持力地層区分断面図の有効性が低いと判断しました。このことから、報告書からこの頁を削除しています。

- ・測点 No6 の突き棒貫入量について、測点が存在する場合は、自動入力となりました。

- ・基礎形状が不定な調査の場合、報告書左側に入るテキストボックスの内容を簡略化できるようにしました。

チェックを入れると、頁の左に入るテキストボックスから、長辺 L、短辺 B の情報を非表示とします。

住宅様 : L=7735 : B=7280

- ・解析条件頁の表示をチェックボックスの表示から、テキスト表示に変更しました。

チェックボックスが比較的古い部品であるため、この部分での報告書の破損が非常に多く発生しておりました。少し見た目が変わってしまうのですが、報告書のエラーの発生を抑えるための処置となります。ご理解の程、宜しくお願いします。

【解析条件】 当物件は、下記の条件に基づき解析・提案を行っています。

判定深度	現況GL - mm (No. 付近)	※詳細は「4. 支持力計算結果」を参照ください。
予想最大傾き (rad)	[kmax]/1000 (rad)	※詳細は「5. 沈下量計算」を参照ください。
造成経過年数	<input type="checkbox"/> 長い <input checked="" type="checkbox"/> 比較的長い <input type="checkbox"/> 浅い <input type="checkbox"/> 不明	
支持力のバラツキ	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり	
擁壁の埋め戻し	<input checked="" type="checkbox"/> 建物配置上に載らない <input type="checkbox"/> 建物配置上に載る <input type="checkbox"/> 不明	
建物にかかる不安要素	<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> 擁壁埋め戻し <input type="checkbox"/> 法面 <input checked="" type="checkbox"/> 新規盛土 <input type="checkbox"/> 瓦礫 <input type="checkbox"/> 陥没 <input type="checkbox"/> 掘り返し (<input checked="" type="checkbox"/> 井戸 <input type="checkbox"/> 浄化槽 <input type="checkbox"/> 枡等 <input type="checkbox"/> 解体時深く掘削) <input type="checkbox"/> 構造物 (<input type="checkbox"/> 建物・基礎 <input type="checkbox"/> アスファルト <input type="checkbox"/> 土間コンクリート <input type="checkbox"/> 樹木)	
残存改良体(杭)	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
その他		

従来の報告書の表示



【解析条件】 当物件は、下記の条件に基づき解析・提案を行っています。

新しい報告書の表示

判定深度	設計GL - mm	現況GL - mm (No. 付近)	※詳細は「4. 支持力計算結果」を参照ください。
予想最大傾き (rad)	[kmax]/1000 (rad)		※詳細は「5. 沈下量計算」を参照ください。
造成経過年数	比較的長い		
支持力のバラツキ	バラツキあり		
擁壁の埋め戻し	建物配置 上に載らない		
建物にかかる不安要素	擁壁埋め戻し、 新規盛土、 構造物等 (樹木、)		
残存改良体(杭)	残存改良体(杭) なし		
その他			